

図 14 (1) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和4年4月)

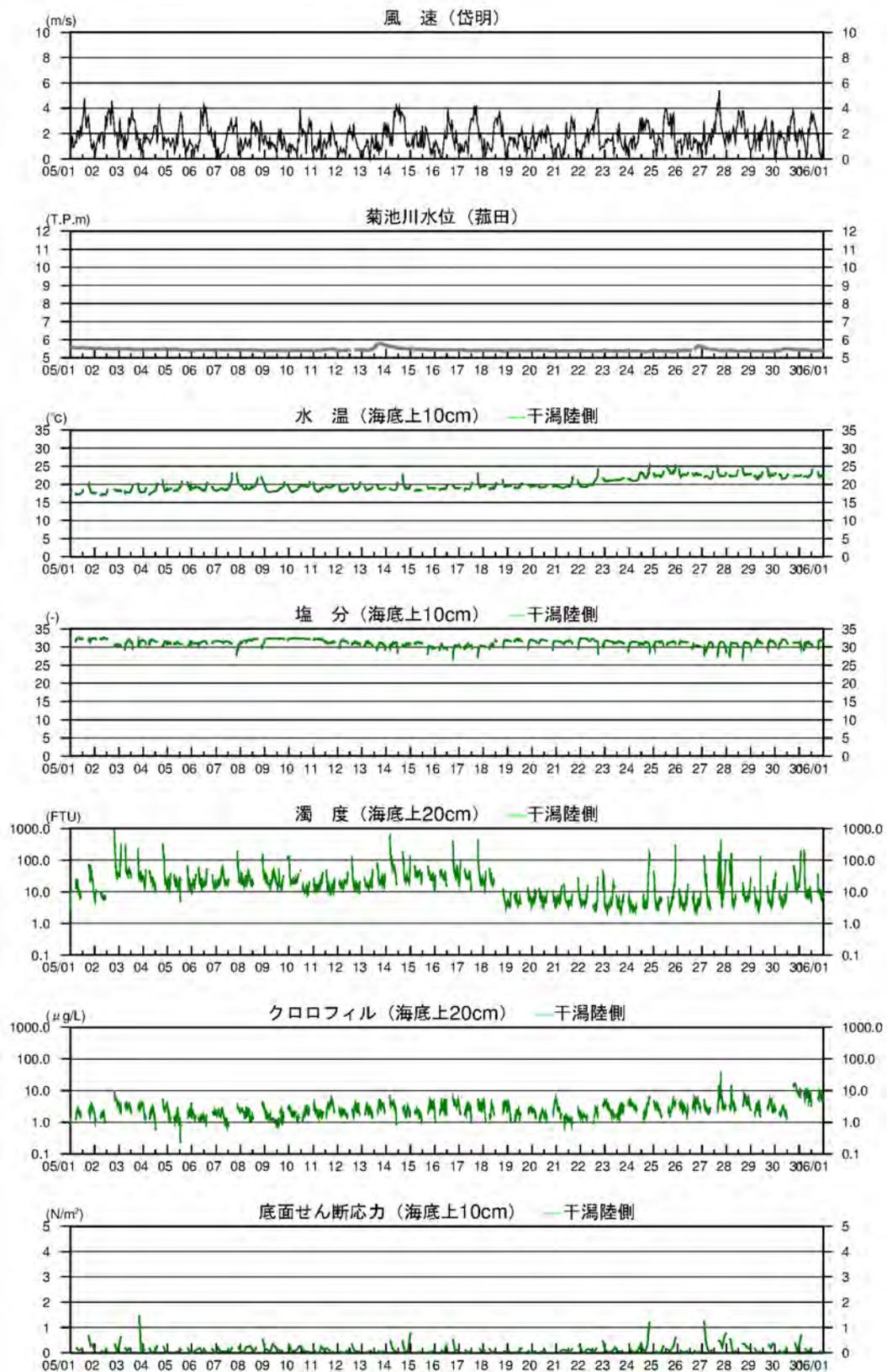


図 14 (2) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和4年5月)

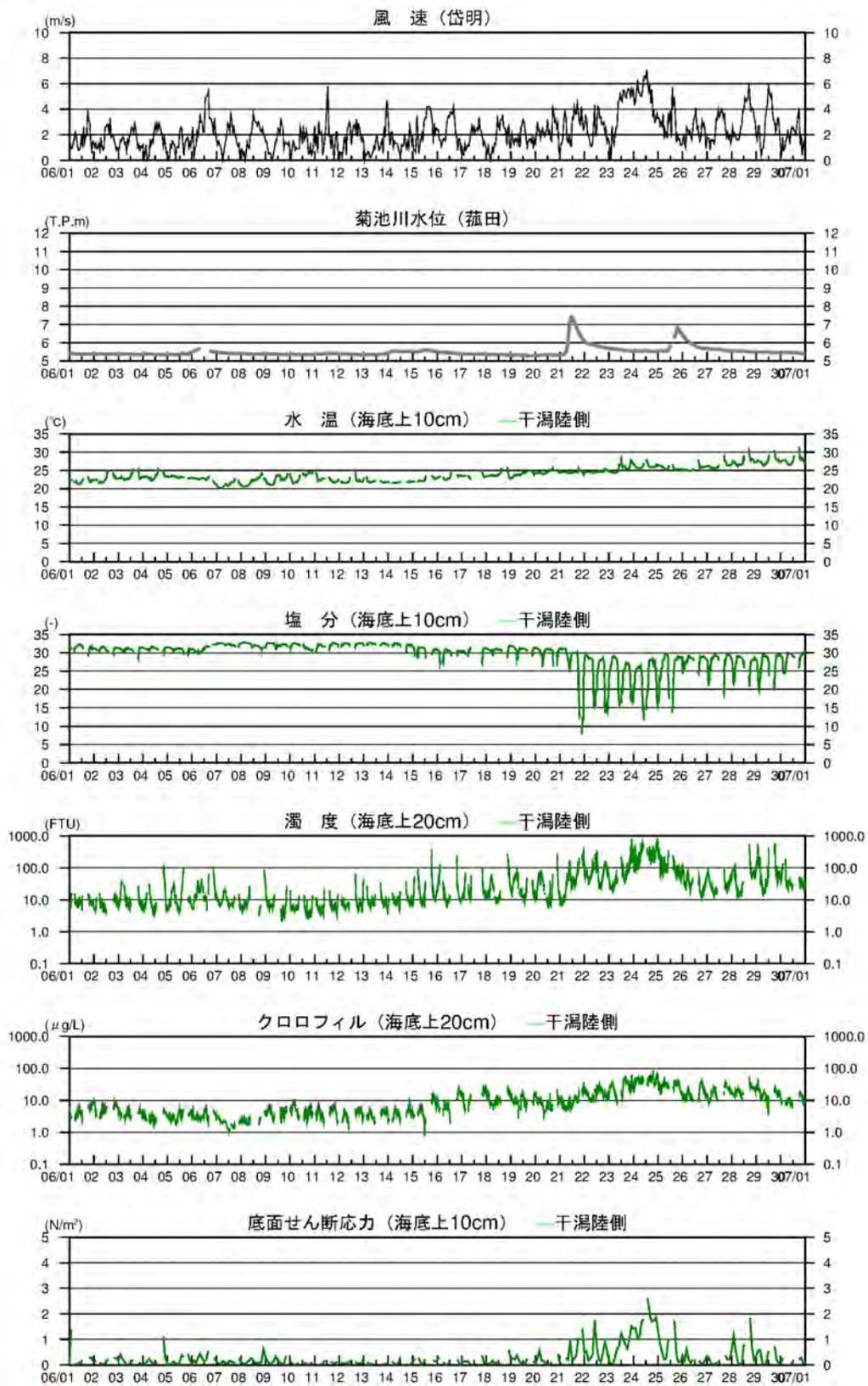


図 14 (3) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和4年6月)

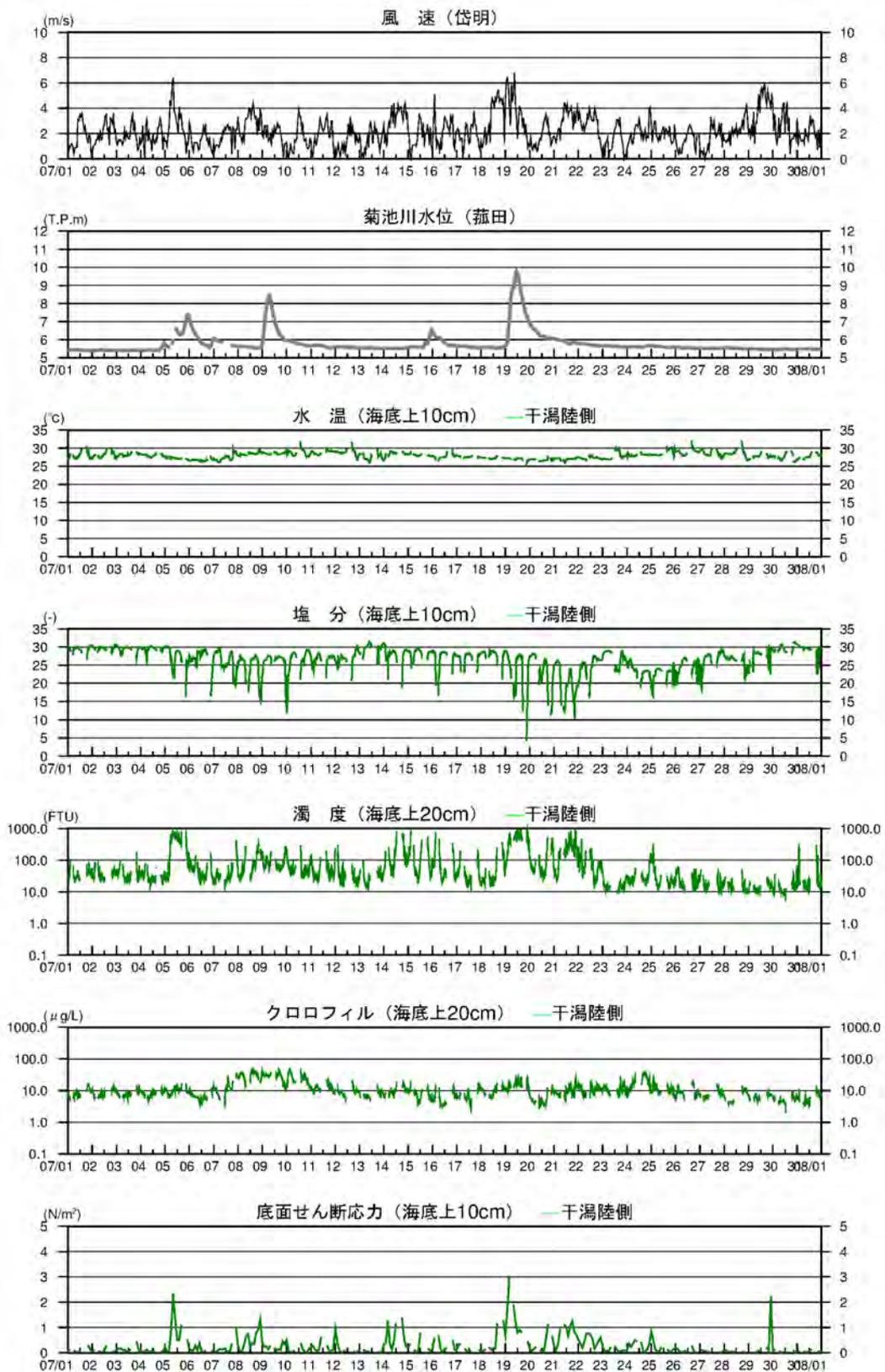


図 14 (4) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和4年7月)

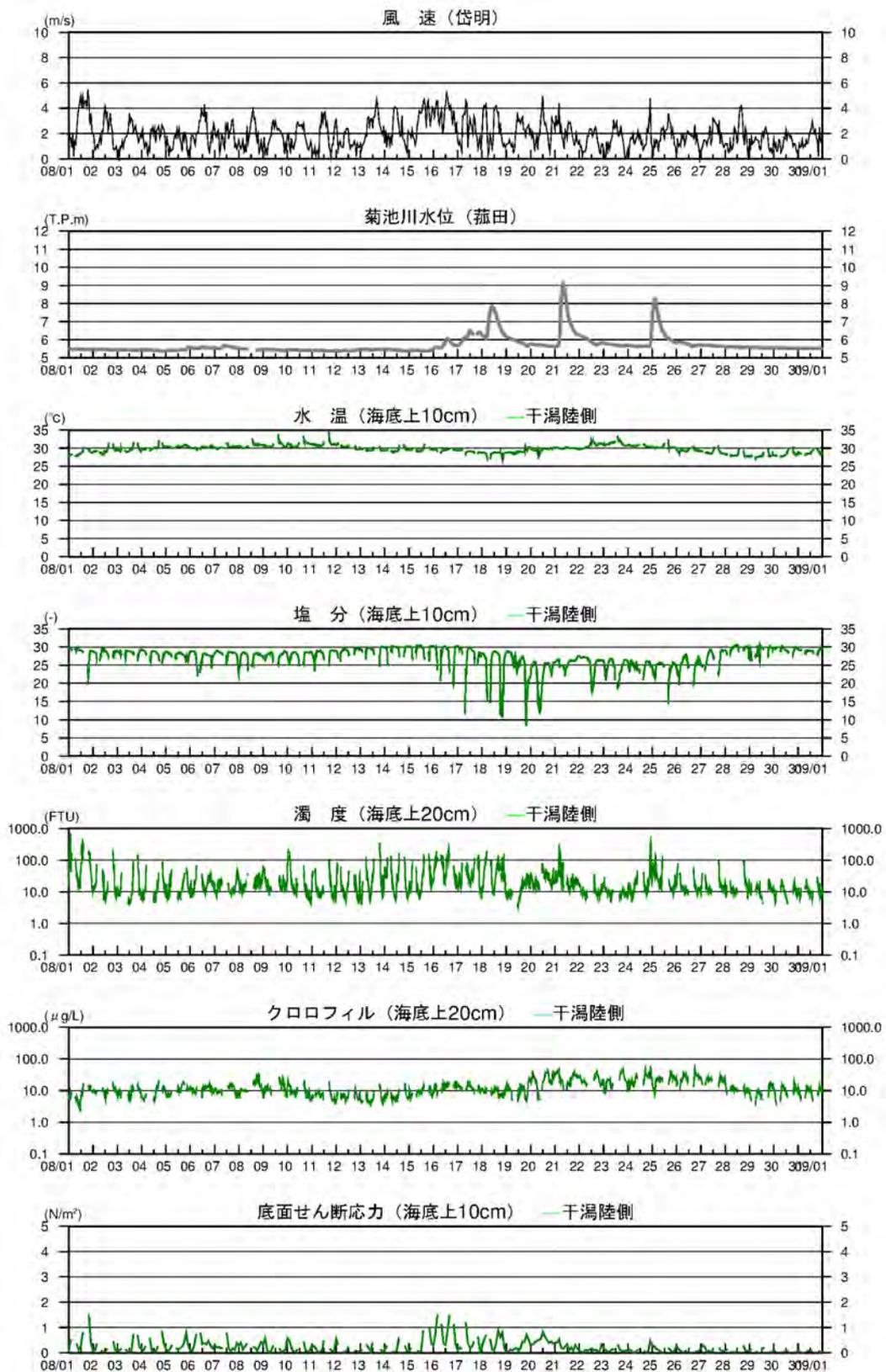


図 14 (5) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和4年8月)

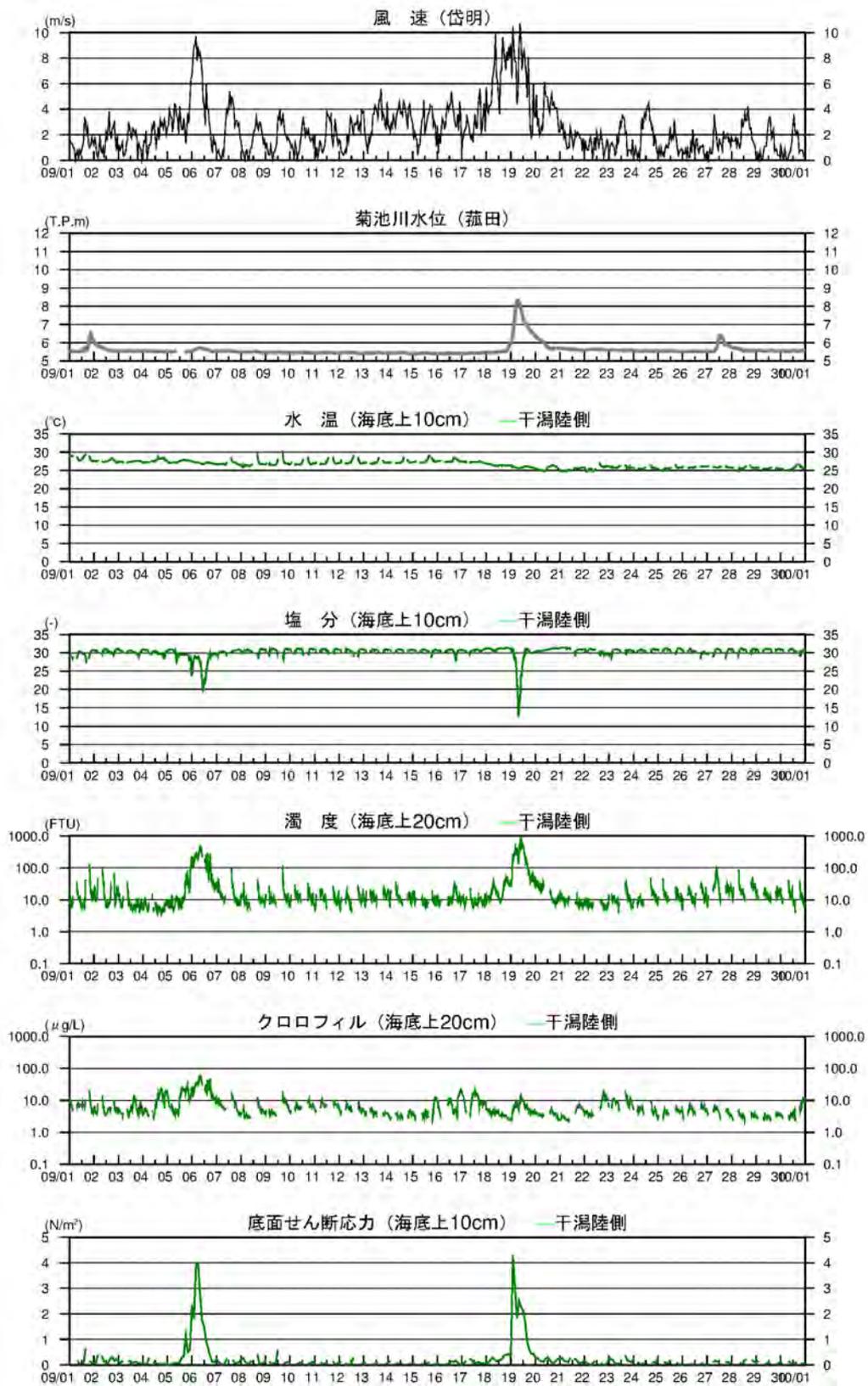


図 14 (6) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和 4 年 9 月)

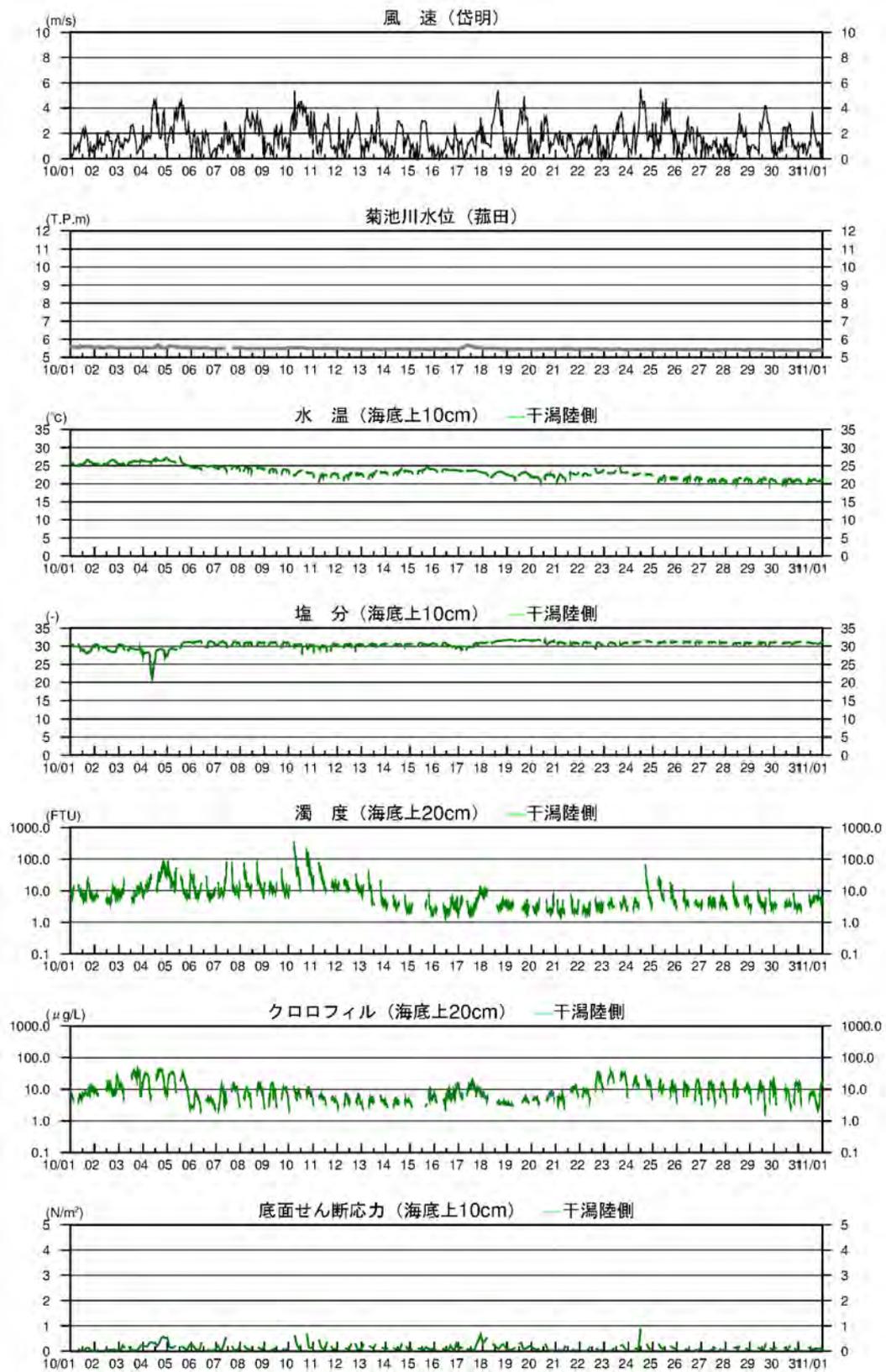


図 14 (7) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和 4 年 10 月)

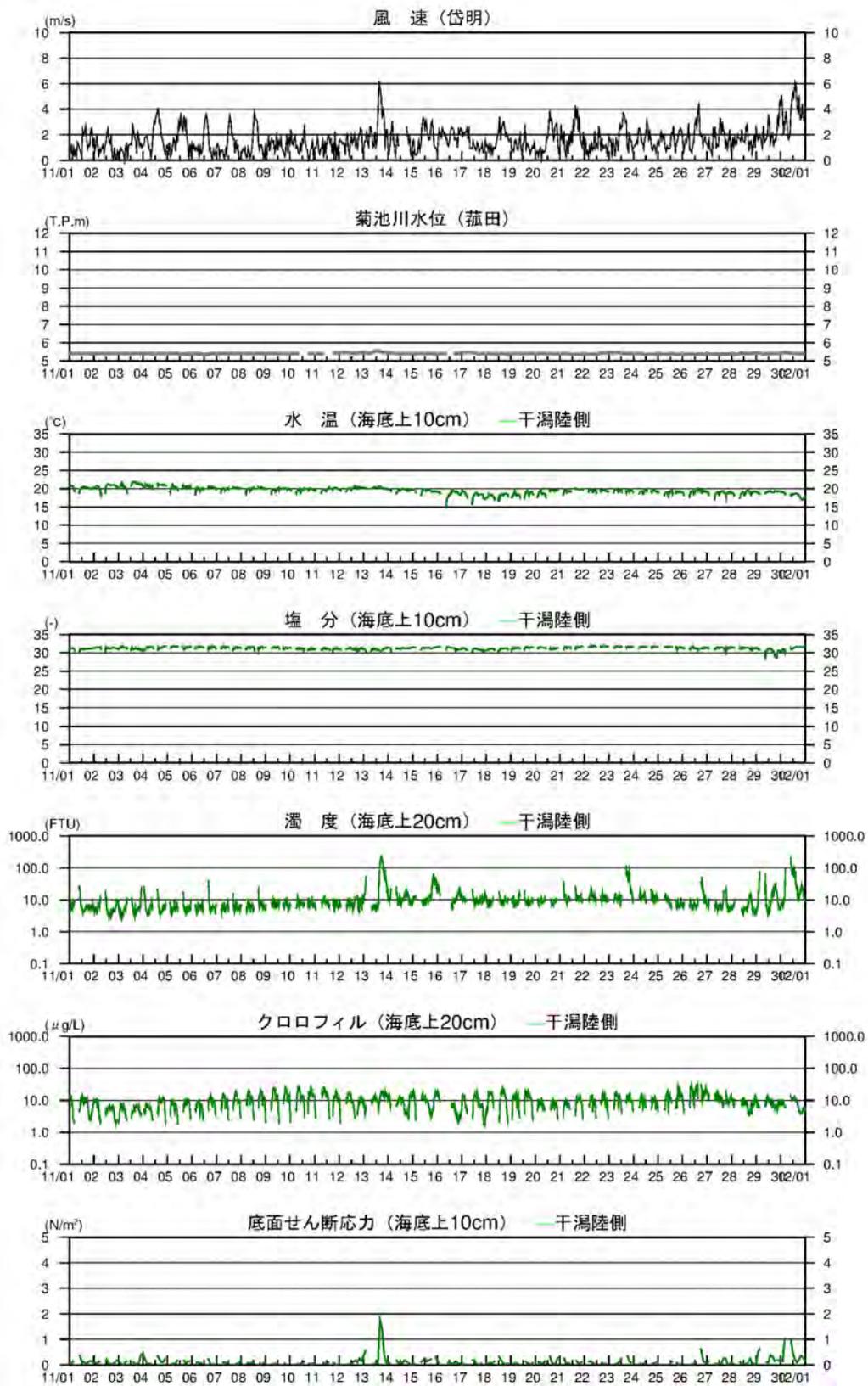


図 14 (8) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和 4 年 11 月)

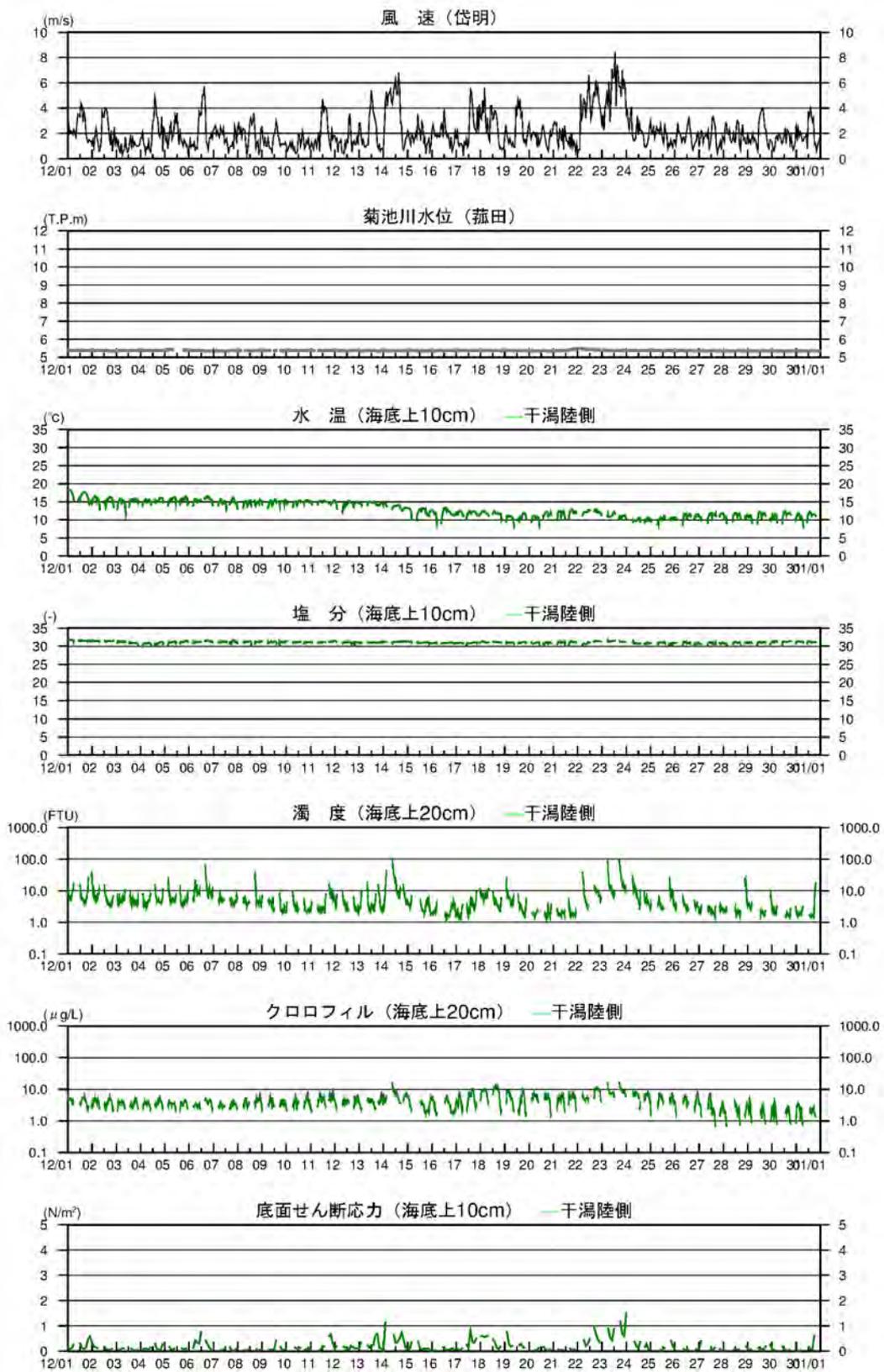


図 14 (9) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和 4 年 12 月)

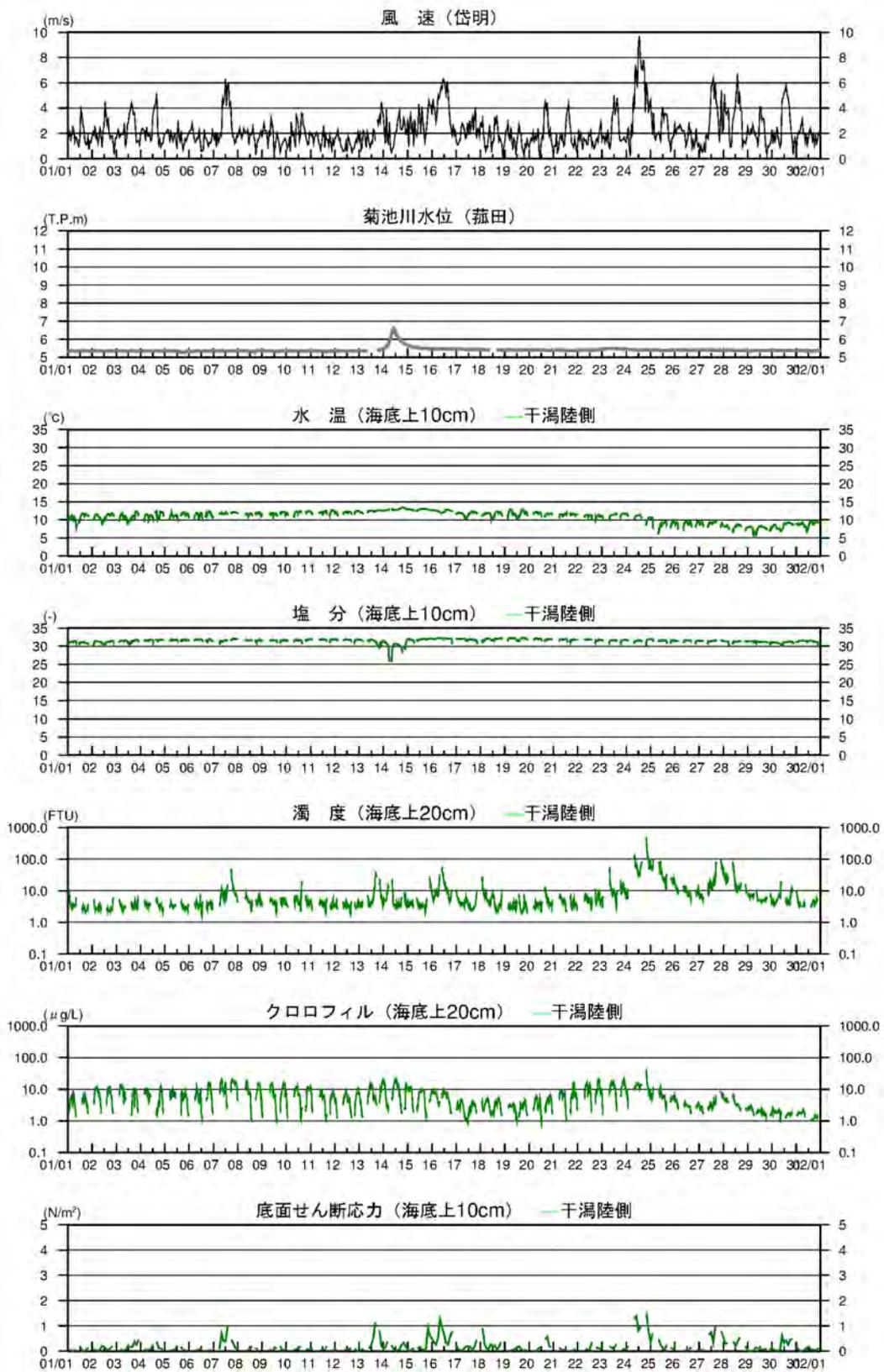


図 (10) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和5年1月)

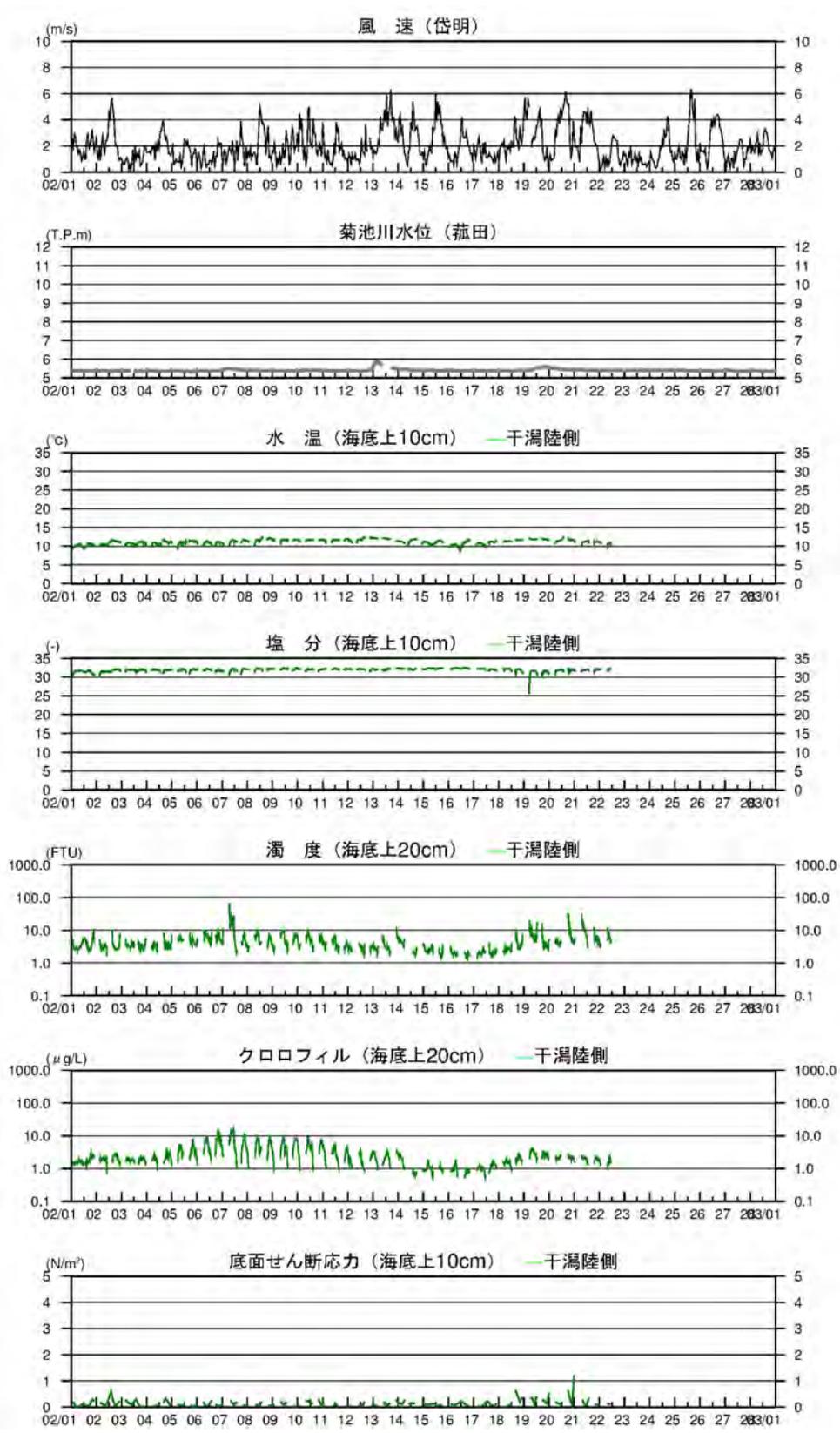


図 14 (11) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和5年2月)

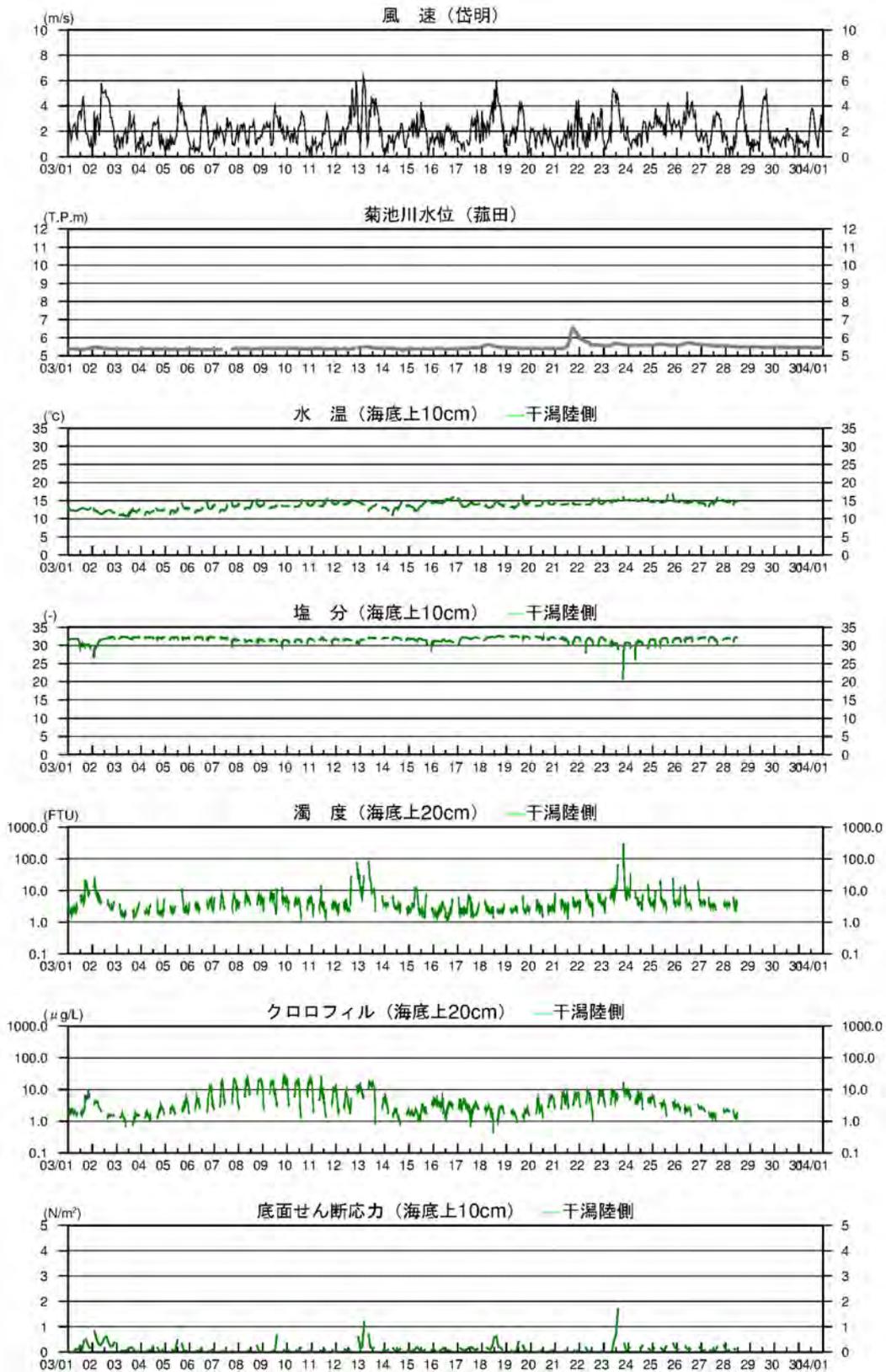


図 14 (12) 干潟陸側における連続観測結果の時系列図 (令和5年3月)

2.2.2 採水分析結果

採水分析結果を表 に示す。

表 4 採水分析結果

調査日	令和4年8月29日	令和5年1月31日
項目	干潟陸側	干潟陸側
SS (mg/L)	20	6
VSS (mg/L)	2	<1

2.2.3 アサリの生息環境の比較

計測されたデータから、アサリの成長・生残に重要と考えられる環境因子として、①餌環境（日平均クロロフィル a）、②濁りの発生状況（日平均濁度）、③温度環境（日平均水温）及び④底質の安定性（底面せん断応力）の状況を整理した。整理結果を図 15～図 17 に示す。

6 月下旬～7 月の餌環境は、調査期間の前半は、干潟沖側において干潟陸側と比較してクロロフィル a 濃度が高い傾向がみられた。台風通過後である調査期間の後半では、2 地点は同程度の餌環境となっていた。8 月の餌環境は、6 月下旬～7 月上旬と異なり、干潟陸側において干潟沖側と比較してクロロフィル a 濃度が高い傾向がみられた。1 月の餌環境は、6 月下旬～7 月と同様に、干潟沖側において干潟陸側と比較してクロロフィル a 濃度が高い傾向がみられた。風が強まった 1 月 24 日以降は、2 地点は同程度の餌環境となっていた。

濁りの発生状況は、6 月下旬～7 月上旬は 2 地点とも同程度の濁度であったが、台風通過後の調査期間の後半では、干潟陸側において干潟沖側と比較して濁度が高い傾向がみられた。8 月の濁りの発生状況は、干潟沖側において干潟陸側と比較して濁度が高い傾向がみられた。1 月の濁りの発生状況は、干潟陸側において干潟沖側と比較して濁度が高い傾向がみられた。

温度環境については、2 地点とも同程度の状況であった。

底質の安定性は、干潟沖側で安定する傾向がみられ、過年度の調査結果にみられた特徴と同様であった。